

## 2 申し送り書の活用による業務改善の検討

長野医療生協 長野中央病院 透析室 ○須藤清美 山本秀子 大澤博美  
中条善則、臨床工学科 宮下健

### I はじめに

当院透析室では、安定した医療の提供を行うために業務改善を伴った効率的な業務の検討を行ってきた。昨年度一年の中で非効率と考えられる業務61件の見直しを実施した。また、職種間、職場間の協力体制として、自職場から他職場へどのような貢献が出来るかという考えを重視し双方の業務の効率化も行った。病棟から透析室への申し送りの見直しもその一つであった。以前は透析室から各病棟へ電話をかけ、看護師が患者さまをお連れして、透析室看護師の手が空くのを待って申し送っていたため時間がかかっていた。

そこで、申し送り時間が短縮でき、正確な申し送り出来ることを目的として、時間をかけず簡単に必要な情報が記入出来る用紙、透析記録用紙に貼付し使用できる用紙という条件を考慮した申し送り書を作成した。(図1) 申し送り書は昨年3月より活用し、今回関係する病棟、透析室スタッフに対し意識調査を含むアンケートを実施し、申し送りの活用は双方の業務改善につながったかなどについて検討したので報告する。

### II 研究方法

#### 対象

- 申し送り書を使用した全病棟の看護師90名
- ・ A病棟 22名 (常時透析患者様が入院)
  - ・ B病棟 23名
  - ・ C病棟 24名
  - ・ D病棟 21名

尚この内申し送り書記入経験者53名、および透析室スタッフ14名を有効回答者とした。(各項目検定は $\chi^2$ 乗検定より算出)

#### 調査項目

- ・ 申し送りにかかる時間
- ・ 申し送り書記入にかかる時間
- ・ 申し送り書の内容は充分で書きやすいか
- ・ 病棟看護師及び透析室スタッフは双方の業務改善されたと認識しているか

須藤清美 長野医療生協長野中央病院 透析室  
〒380-0814 長野市西鶴賀 1570 026-234-3211 (内 1420)

## 申し送り書

病棟・透析室申し送り書		月	日
患者名		棟	担当No
搬送	独歩	車椅子	ベッド
			酸素使用量
			L
HD前採血	(なしあり)		]
HD後採血	(なしあり)		]
静注	(なしあり)		]
インスリン	(なしあり)		単位]
モニタ	(必要 不要)		]
メモ			

図1

9.5cm

### III 結果及び考察

各病棟看護師のアンケート回収率は90名中86名(96%)であった。透析室スタッフの回収率は14名(100%)であった。

申し送り書記入経験者53名中、数回記入が30名、頻回記入が23名であった。病棟別で見ると使用回数でかなりの差が見られた。A病棟は他病棟に比べほぼ全員が頻回記入に属し日常的に記入していた。(図2)

早く要点をつかみ記入できる習慣が身についたと考えられる。また、この様な看護師が多い病棟では当然といえる。(図3)

申し送り時間が短縮したかについては全体では、有意に申し送り時間が短縮したが、各病棟では有意差が認められなかった。しかし記入回数の多いA病棟では、半数以上が時間短縮したと認識していた。ここでも申し送り書使用を繰り返すことが申し送り時間を短くしていると考えられる。(図4)。

申し送り書の内容について充分であるが、病棟看護師は41名、透析室スタッフは13名でかなりの数を占めている。現在の内容でほぼ充足されていることが分かる。(図5)

申し送り書は書きやすいかについて書きやすいが、40名であった。今後検討を加える必要もあるがほぼ現在の用紙でよい事が分かる。(図6)

病棟・透析室双方の業務改善がされたかについては記入回数とこれらの認識とは有意差を認めなかった。

記入経験者53名

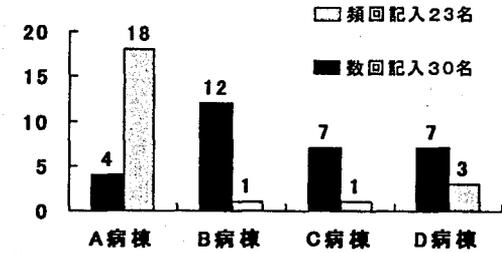


図2

申し送書記入にかかる時間

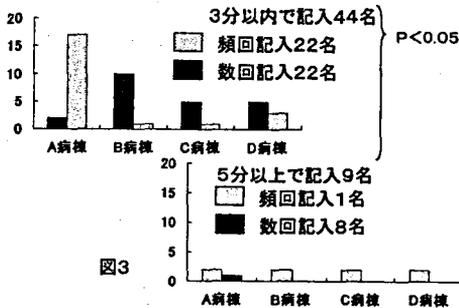


図3

申し送り時間は短縮できたか

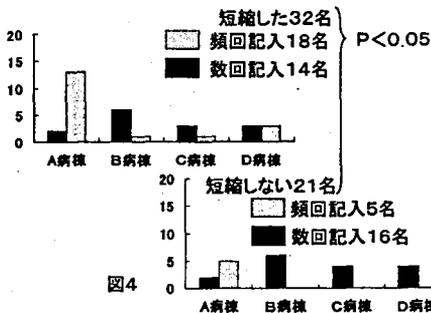


図4

しかし全病棟で記入経験者の約半数が双方の業務改善がされたと答えている。またどちらかの職場の業務改善がされたと認識している看護師を含めると46名であった。透析室スタッフでは9名が双方の業務改善がされたと答え、またどちらかの職場の業務改善がされたと認識しているスタッフを含めると12名であった。(図7)

申し送り書を使用することは病棟看護師が申し送りをするために透析室で待つ時間がなくなり、透析室スタッフも申し送りを受ける時間を必要としなくなった事が一因と考えられる。今後も双方の効率化を重視し業務改善を進める必要があると言える。改善されないと答えた意見の詳細については、今回の調査では実際時間を計測していないため、個人差による時間の感覚の違い等によるものと考えられる。

申し送り書の内容は充分か

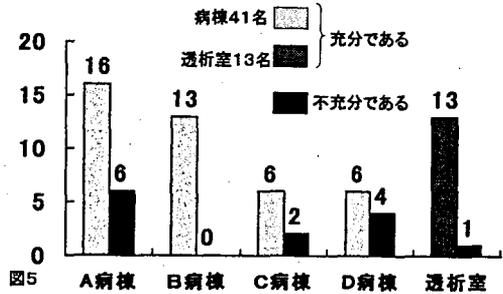


図5

申し送り書は書きやすいか

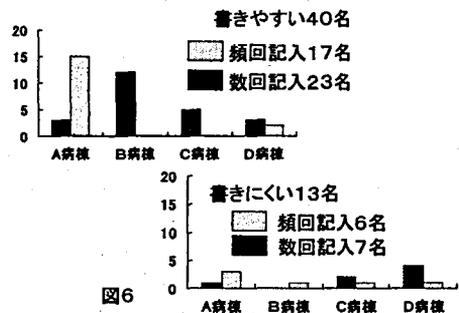


図6

双方の業務改善ができたか

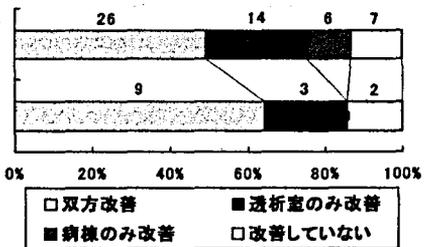


図7

IVまとめ

- ・申し送り書を頻回記入するほど記入時間は短縮し、申し送り時間も短縮した。
- ・病棟の看護師26名(約50%)は、双方の業務改善がされたと認識している。
- ・透析室スタッフ9名(約65%)は、双方の業務改善がされたと認識している。
- ・申し送り書の内容はほぼ充分で今のままで書きやすい。
- ・申し送り書を活用することは、申し送り時間の短縮などの業務改善につながったと考えられる

V引用・参考文献

- ・ 畠山恵美：透析看護情報を他施設へ引き継ぐポイント、透析ケア 2002 VOL.8
- ・ 高橋静子：効率的な導入期指導のための透析室と病棟の連携、透析ケア 2000 VOL.6